

平成24年度南砺市病院改革プラン検討委員会 会議録

日 時 平成25年3月26日（火）15時30分から16時50分

場 所 福野庁舎2階 201会議室

出席者 委員 長瀬啓介、杉山敏郎、大江浩、佐伯俊雄（代理 真草嶺信義）、西村静代、
向川静孝、三谷直樹、大塚千代、長谷川邦子

市長 田中幹夫

事務局 地域包括医療・ケア局 中山繁實、仲筋武智、（南砺市民病院）南眞司、石岡威、
山崎義尚、（公立南砺中央病院）三浦利則、杉村稔、（医療課）吉澤昇、三田義弘

あいさつ 田中市長

南砺市の病院事業について、合併後福野病院を診療所化し井口診療所を閉鎖した。地域の高齢化が進む中、地域医療をいかにニーズに合った取り組みとするかを考えて進めてきた。その土地にあった医療福祉のあり方があると思う。地域住民が幸せに安心して生活できるよう地域包括医療・ケアに取り組んできている。病院改革プランでは、2病院4診療所についてどうあるべきか取り組んできている。必要性を認識しコストも考えていく中で、南砺市のあるべき医療の姿が見えてくるのではないかと。今日は平成23年度決算、平成24年度決算見込みを説明させていただき、将来あるべき姿を導き出すことを考えていきたい。

委員の委嘱

机上の委嘱書をもって委員の委嘱とする。

委員の紹介

事務局が委員の方の氏名、職名を紹介する。

議題

（1）南砺市病院改革プラン検討委員会委員長の選任について

委員長の選任について委員に諮ったところ、事務局案があれば提示してほしい旨の発言があり、事務局から大江浩氏を推薦した。委員に異議がなく大江氏を委員長に選任した。委員長就任にあたり大江氏から発言があった。本来であれば医師会長がこの任に就いていただくべきと考えていたが、欠席とのことなので引き受けさせていただく。

（2）南砺市立病院改革プランについて

資料1-1について事務局（南砺市民病院）から説明を行う。

資料1-2について事務局（公立南砺中央病院）から説明を行う。

改革プランの進捗状況について、南砺市民病院長、公立南砺中央病院長から説明を行う。

資料2、資料3-2、資料3-3、資料4、資料5について事務局（医療課）から説明を行う。

委員長が委員より意見を求める

委員 両病院の医業収益（繰入金除く）／職員給与費で比較すると、公立南砺中央病院のコストパフォーマンスがいいように見える。公立南砺中央病院は財務的にも改善されてきている。建物の減価償却費や購入の金額の面でまだ対応できる部分があるように見える。患者数の増加の推移を見ると地域の需要はまだまだあるように見えるので、医師、看護師の確保を図ることで収益の確保ができ、収支の改善を見ることができないのではないか。南砺市民病院についても、購入のプロセスの見直しなどを行うことで収益の確保を図ってもらいたい。

委員長 医療材料の協同購入、ジェネリック医薬品の状況はどうか。

事務局 医療材料の協同購入は行っている。ジェネリック薬品についても、病院ごとの審議会を経て採用している。

委員 2つの病院が類似した診療科で運営している。経営分析のために各診療科ごとの分析を進められるといいのではないかと考える。機能を集約することで限られたマンパワーで効率的な運営ができるようになるかと考える。市民のニーズも大切だがマイナー科については効率が悪い点もあることから、2つの病院の機能を考えてみることも大切だと思う。

委員長 資料3によると外科が集約されているのか。事務局から意見があれば説明してほしい。

事務局 平成24年度の公立南砺中央病院の外科は非常勤となっている。平成25年度は常勤化されることから状況は変わる。内科、外科、整形外科といった基本的な部分は広い地域をカバーする上でも必要だと考えている。特殊な科については集約が必要だと考えている。新たに開設した市民病院の歯科口腔外科は南砺市全体を対象と考え活動している。

委員 市民を巻き込んで再生するという考えに賛同している。南砺市民病院、公立南砺中央病院がどのように役割分担をしているのか分かりにくい。病院の現状を自分たちが勉強することで、理解が広まっていると思っている。

委員 病院規模、医師数、看護師数が違っているのに薬剤師の数が同じなのは不思議に思った。市民感覚としては、南砺市民病院と公立南砺中央病院で職種間の人事交流がないのは不思議に感じている。せめて事務職について人事交流できないか。

事務局 看護師、薬剤師については両病院で研修を行う際に情報交換を行っている。それぞれの病院のいいところの勉強することを始めている。

委員 公立南砺中央病院の職員数が南砺市民病院に比較して少ないことから、一人あたりの負担が多いのではないかと考える。医療事故が起こらないように十分に気をつけてもらいたい。

委員長 両病院の経営努力は頭の下がる思いである。経営状況が厳しいのは砺波医療圏だけではない。今後、医療法の改正により病床の機能が変化していく。今後さらに変化が著しくなることから、計画にとらわれずに積極的な取り組みを行ってもらいたい。患者様の流れも南砺市だけ

で完結することができるわけではないので、砺波医療圏だけでなく県西部全体で考えてもらいたい。

(3) 今後のスケジュールについて

本日は平成23年度決算、平成24年度決算見込みを報告している。本計画の財政計画は平成23年度まで、病院のあり方については平成25年度までとなっている。平成25年度までの決算を報告することから委嘱期間は平成27年までとなっている。今後、年1回は報告する機会を設けたい。

(4) その他

資料1について

平成21年度から経過をわかるように資料作成している。平成26年度から公営企業法の改正及び消費税の動向により資料1の数値が大きく変動する可能性があることを説明した。

委員 変更点についてわかれば、早期に情報提供をしていただきたい。

事務局 わかり次第情報提供したい。

委員長が議事を終了したことを告げ会議を終える。

副市長挨拶

会議終了 16時50分